

(受理番号)	4-22 (受理年月日) 令和4年11月24日
	陳 情
<p>件 名</p> <p>要 旨</p>	<p>新幹線の導入見直しを求めることについて</p> <p>今日本では、賃金が上がらず、年金は削減され、あらゆる物価の高騰で、私たち庶民は苦しんでいる。新型コロナの第8波も心配である。政府がまともな物価対策や経済対策、コロナ対策も打ち出さないことに多くの人々が不満や憤りを感じている。</p> <p>県政に対しては、改善・実施を願う優先事項が数々ある中、新幹線構想は庶民の願いとはかけ離れている。</p> <p>とりわけ香川県は、高松駅から大阪、高知、愛媛へはいずれもJR利用で2時間ちょっと、高知や愛媛はバスや自家用車でも2時間ちょっとで移動可能である。新幹線は早く目的地に着くように見えて、結局はそこからの移動手段が必要になる。新幹線よりはるかにリーズナブルな料金で利用できるツールが既に存在しているのに、どうして新幹線が必要なのか理解しがたい。しかも、用地買収や建設費にいくらの税金を使おうとしているのか。香川県が全額を賄う訳ではないにしても、県民の税金を新幹線に回すよりは、県民の生活や暮らしの改善に使い、住みよい香川にして欲しいと県民は望んでいる。また、県民は、どうせ税金をかけるなら新幹線より、在来線の複線化を希望している。</p> <p>新幹線ができたからといって、人口減少に歯止めがかかったり、観光が爆発的に改善されるのか。かつて瀬戸大橋に羨望の目が集まったが、香川県は通過の町になったのではないか。新幹線においても同じことがいえると思う。</p> <p>大型公共事業は、県外の大手の企業の仕事が大半で、地元企業は下請け孫請けで、一部のいつときの仕事にしかない。いつときの仕事より、暮らしを守るため地元企業が担える仕事を増やし、地元企業を支えていただきたい。</p> <p>また、他県では災害時比較的早期に復旧したとのことだが、立地や被害が違えば、それが香川に当てはまるとも考えにくく、かえって大型の建造物として、災害時の被害拡大や被害の改修に大金が必要となるのではないか。南海トラフ巨大地震が懸念される中、このような大型工事を進め「想定外」だったと後悔を残すことのないよう、新幹線の導入見直しを強く求める。</p>
部 名	交流推進部